

2026（令和8）年4月22日

沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド（DT）の  
副反応疑い報告状況について

○沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド

商 品 名 : ①沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド「KMB」  
②DTビック  
③沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド「第一三共」  
④沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド「タケダ」

製 造 販 売 業 者 : ①KMバイオロジクス株式会社（旧 一般財団法人 化学及血清療法研究所）  
②一般財団法人 阪大微生物病研究会  
③第一三共株式会社（旧 北里第一三共ワクチン株式会社）  
④武田薬品工業株式会社

販 売 開 始 : ①平成8年4月  
②平成18年12月  
③昭和62年5月  
④昭和51年2月

効 能 ・ 効 果 : ジフテリア及び破傷風の予防

副反応疑い報告数

（令和7年10月1日から令和7年12月31日報告分まで：報告日での集計）

令和7年10月1日から令和7年12月31日までの医療機関への納入数量を接種可能なべ人数とし、副反応疑い報告頻度を計算したものは以下のとおり。

※報告日での集計のため、以下の件数には接種日や発生日が対象期間以前の症例も含まれている。

（単位：例）

	接種可能なべ人数 （回数）※	製造販売業者からの報告		医療機関からの報告	
		報告数 （）：接種日が左記期間内の症例		報告数 （）：接種日が左記期間内の症例	
		報告頻度	報告頻度	うち重篤	
令和7年10月1日 ～令和7年12月31日	159,930	0 (0)	1 (0)	0 (0)	
		0.0000% (0.0000%)	0.0006% (0.0000%)	0.0000% (0.0000%)	
（参考） 平成25年4月1日～ 令和7年12月31日	18,780,005	13	219	50	
		0.0001%	0.0012%	0.0003%	

※一人あたり0.1mL接種されたと仮定した。

令和7年10月1日から令和7年12月31日報告分の重篤例の転帰

（単位：例）

	製造販売業者からの報告						医療機関からの報告					
	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計
重篤例数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（注視点）

※ 副反応疑い報告については、医薬品との因果関係が不明なものを含め、製造販売業者又は医療機関から報告されたものであり、個別に医薬品との関連性を評価したものではない。

※ 「重篤」とは、死亡、障害、それらに繋がるおそれのあるもの、入院相当以上のものが報告対象とされているが、必ずしも重篤でないものも「重篤」として報告されるケースがある。

※ 非重篤症例には、重篤度が不明の症例も含まれている。

※ 製造販売業者からの報告は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10に基づき「重篤」と判断された症例について報告されたものである。なお、製造販売業者からの報告には、医療機関から報告された症例と重複している症例が含まれている可能性があり、重複症例は、医療機関報告として計上している。また、その後の調査等によって、報告対象でないことが確認され、報告が取り下げられた症例が含まれる可能性がある。

※ 製造販売業者からの報告には、複数の製造販売業者から重複して報告されている症例が含まれている可能性がある。

## 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT)の副反応疑い報告状況

平成25年4月1日から令和7年12月31日までの報告数及び症状種類別報告件数は以下のとおり。医療機関からの報告については、報告医が「重篤」としたものを集計した。

2025年12月31日現在

	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告(企業報告)	平成25年4月～令和7年9月までの医療機関重篤症例と企業報告の総計数	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告(企業報告)	令和7年10月～令和7年12月までの医療機関重篤症例と企業報告の総計数
報告数	50	13	63			
症状別総件数	85	20	105			
症状名の種類	症状の種類別件数					
<b>胃腸障害</b>						
急性腸炎		1	1			
上腹部痛	1		1			
肛門失禁	1		1			
<b>一般・全身障害および投与部位の状態</b>						
ワクチンを接種した肢の広汎性腫脹	1		1			
ワクチン接種部位紅斑	1		1			
倦怠感	1		1			
腫瘍	1		1			
注射部位びらん	1		1			
注射部位紅斑	4		4			
注射部位腫脹	4		4			
注射部位小水疱	1		1			
注射部位熱感	1		1			
注射部位疼痛	2		2			
熱感	1		1			
発熱	2		2			
歩行障害	1		1			
歩行不能	1	1	2			
無力症	1		1			
疼痛	1		1			
<b>感染症および寄生虫症</b>						
脳炎	1		1			
蜂巣炎	1		1			
無菌性髄膜炎		2	2			
<b>筋骨格系および結合組織障害</b>						
関節可動域低下	1		1			
関節痛		1	1			
筋膜疼痛症候群	1		1			
筋力低下	3		3			
<b>血液およびリンパ系障害</b>						
免疫性血小板減少症	3		3			
<b>血管障害</b>						
ショック	1		1			
蒼白	1		1			
潮紅		1	1			
<b>呼吸器、胸郭および縦隔障害</b>						
過換気	1		1			
喘鳴		1	1			
<b>社会環境</b>						
寝たきり	1		1			
<b>傷害、中毒および処置合併症</b>						
脊柱損傷		1	1			
<b>神経系障害</b>						
ギラン・バレー症候群	3		3			
意識レベルの低下	1		1			
意識消失	1	1	2			
運動機能障害		1	1			
感覚障害	1		1			
感覚鈍麻	2		2			
起立障害	1	1	2			
急性散在性脳脊髄炎	3		3			
抗ミエリンオリゴデンドロサイト糖蛋白抗体	1		1			
失神	3		3			
失神寸前の状態	2		2			
小脳性運動失調	2		2			
体位性めまい	1		1			
単麻痺	1		1			
頭痛	2		2			
脳梁の細胞傷害性病変	1		1			
末梢性ニューロパチー	2		2			
慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー		1	1			
痙攣発作	1		1			
<b>腎および尿路障害</b>						
ネフローゼ症候群	1		1			
排尿困難	1		1			
<b>先天性、家族性および遺伝性障害</b>						
脊髄空洞症	1		1			
<b>代謝および栄養障害</b>						
食欲減退	1		1			
<b>皮膚および皮下組織障害</b>						
スティーヴンス・ジョンソン症候群	1		1			
そう痒症	1		1			

紅斑	1		1		
全身性剥脱性皮膚炎	1		1		
蕁麻疹	1	1	2		
免疫系障害					
アナフィラキシーショック		1	1		
アナフィラキシー反応	7	3	10		
良性、悪性および詳細不明の新生物(嚢胞およびポリープを含む)					
組織球性壊死性リンパ節炎		1	1		
臨床検査					
アミラーゼ増加		1	1		
血圧低下	1	1	2		

## 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT)の副反応疑い報告状況

予防接種後副反応疑い報告書の別紙様式1の報告基準に記載のある症状(「その他の反応」は除く)について、報告状況をもとに集計を行った。

2025年12月31日現在

	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告(企業報告)	平成25年4月～令和7年9月までの医療機関重篤症例と企業報告の総計数	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告(企業報告)	令和7年10月～令和7年12月までの医療機関重篤症例と企業報告の総計数
アナフィラキシー*1	7	4	11			
脳炎・脳症*2	1		1			
けいれん*3	1		1			
血小板減少性紫斑病*4						

\*1 アナフィラキシーショック、アナフィラキシー反応、アナフィラキシー様ショック、アナフィラキシー様反応

\*2 脳炎、脳症、ムンプス脳炎、自己免疫性脳炎、低酸素性虚血性脳症、亜急性硬化性全脳炎、ラスマッセン脳炎、急性出血性白質脳炎、難治型部分発作重積型急性脳炎

\*3 間代性痙攣、強直性痙攣、小児痙攣、新生児痙攣、全身性強直性間代性発作、熱性痙攣、片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群、痙攣発作

\*4 血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病

## 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT)非重篤症例一覧 (令和7年10月1日から令和7年12月31日までの報告分)

2025年12月31日現在

### 医療機関からの報告

No	年齢 (接種時)	性別	接種日	同時 接種	ワクチン 名	販売名	ロット番号	製造販売 業者名	基礎疾患等	症状名	発生日	接種から 症状発生 までの日	因果関係 (報告医評 価)	重篤度	転帰日	転帰 内容
1	11歳	男	2025年9月29日	なし	DT	DTビック	2E072	阪大微研	無	接種部位(左上腕)を中心としたφ 4cm程度の発赤	2025年10月1日	2	関連あり	重くない	不明	不明